芥川水系（大阪府高槻市）におけるタイワンドジョウとカムルチーの記録

芥川緑地資料館（あくあぴあ芥川）
花﨑　勝司

我が国におけるタイワンドジョウ科 Channidae にはコウタイ *Channa asiatica*、タイワンドジョウ *C. maculata*、およびカムルチー*C. argus* の 3 種が知られ、いずれも在来生物の捕食などにより悪影響を及ぼす可能性があるため要注意外来生物に指定されている。これら 3 種のうち、コウタイは腹鰭を欠くという特徴から、後者 2 種とは明確に識別されるが、タイワンドジョウとカムルチーでは、体側に並ぶ斑紋の形状やその列数，背鰭と臀鰭の鰭条数の相違などにより区別可能とされる。しかし、旧来から両種は、その相違点となる斑紋形質には不明瞭なものがあること，計数形質においてはその数値に重複範囲もあることから、これらを連続的変異とみなし別種とする見解には疑義も出ていた。ところが近年、本科 20 種を対象とした分子系統学的研究から、両種は別種であることが示された。

芥川は淀川右岸に合流する流路延長約 24km の小河川である。芥川に生息する魚類についての先行研究は 1960 年代に遡り、漁業権漁場として管理されている高槻市原地区の中流域では 1964 年～2007 年の期間､約 5 年ごとに調査が行われ､その結果についての報告がある。しかし、オオクチバスなどの外来生物により、在来魚種に甚大な悪影響がおよんだ淀川に合流する下流域についての既報は少なく、国外外来魚の生息状況などの基礎的知見は皆無である。このような情報基盤の脆弱性に起因するものと考えられるが、芥川下流域からタイワンドジョウが 2009 年に、カムルチーが 2014 年に採集され、これが両種の初記録個体として当館で収蔵標本登録・保管されるにいたった。2009 年から 2014 年にかけて記録された個体は前記個体を含め、タイワンドジョウが 4 個体，カムルチーが 2 個体（1 個体は芥川西方水路で採集）で、その体長、背鰭鰭条数、臀鰭鰭条数、側線鱗数、および側線上方横列鱗数は、前者が 26.7～326.0 ㎜、41-44 本、27-28 本、54-56 枚、および 4-6 枚、後者が 115.0 ㎜と 638.0 ㎜、46 と 52 本、32 と 35 本、64 枚（両個体共）、および 7 と 9 枚であった。また、今回記録された個体については、体色斑紋が不明瞭な個体や、その発現が明瞭でない稚魚が含まれていた。したがって両種の識別に当たっては、計数形質である背鰭と臀鰭の鰭条数、側線鱗数と側線上方横列鱗数の計数が不可欠であり、両種の交雑が報告されている現状では、より重視すべき形質としてとらえておく必要がある。

第 10 回外来魚情報交換会
2015 年 1 月 24 日（土）
草津市立市民交流プラザ